


ワーキング・ウーマン
〒464-0092 名古屋市千種区
茶屋が坂 2-6-B-805
(052)842-2739(内藤)
留守番電話・FAX
http://www008.upp.so-net.ne.jp/w_woman/

♀W・Wニュースは隔月発行です
申込先 干振替 00870-4-10024
ワーキング・ウーマン
年会費 2000円

ワーキング ウーマン



WORKING WOMAN
男女差別をなくす愛知連絡会

＝CONTENTS & INFO＝

<WW2月例会>

◆「レッドマリア それでも女は生きていく」上映&トーク

日時 2月22(日) 14:00～16:30
会場 ウィルあいち
トーク 伊藤みどり氏 働く女性の全国センター副代表
資料代 500円 定員50名です(先着順)

→→同封チラシをご覧ください



◆女性首長を実現する会あいち発足二周年記念講演会と政治塾

日時 2月11日(水・祝) 13:30～16:30
会場 ウィンクあいち (名古屋駅前)
第1部基調講演 小宮山洋子氏 元厚生労働大臣

「真に女性が輝くための政治」

第2部政治塾 岩本美砂子氏 三重大学教授政治塾

「女性の活躍推進法を問う」 →→同封チラシをご覧ください

- ★ WW年末パーティ報告・・・P2-3
 - ★ 東チモールに行ってみたら・・・P3-5
 - ★ 11月例会名古屋市議員候補者に女性政策を聞く報告・・・P6-7
 - ★ フェミマネー活用案内・・・P8-9
 - ★ 女の映画評「滝を見に行く」・・・P10-11
 - ★ お出かけ情報・じょうほう・・・P12-13
- *今回ミニコミ情報はお休みです

WW 年末パーティ 報告



12月14日(日)恒例のワーキング・ウーマン年末パーティが開催されました。前半は事務局AKANE(富田さん)のトーク

「東チモール/行ってみたらこんなとこだった」東チモールという名前は知っているが、いったいどんな所なのか、独立以来マスコミにもほとんど出てこない不思議な国の訪問記を話していただきました。時間が足りなくて急ぎ足での報告でしたが、とても面白かったです(P3)。

終了後はお待ちかね、マイ箸、マイ皿持参のパーティです。今年も料理はたっぷり。まずは料理を堪能してもらい、談笑。その後はこれまた恒例の1分間スピーチです。今年のお題は「私にとって働くとは」、「近況報告」。1分間スピーチを始めたころはタイムキーパーが時間終了の合図をしても、話し切れない人がいましたが、今では、ほとんどの参加者が1分間で話しをまとめます。毎年のお題“を話していただくには1分間はあまりにも短くて参加者の皆様には申し訳なく思っている次第です。



左写真:壁にはサンタの飾り、そしてワインレッドのテーブルクロスで会場が華やかに・・・事務局の高橋さんはあでやかな着物を着ての参加です。フェミ着つけ教室で学んだ成果でしょうか。今回が一人で着つけをした初デビューです。

WW会員の吉川さんと一緒に山梨県議会議員の仁ノ平 尚子さんが飛び入り参加されました。

「私にとって働くとは」。これだけで1冊の本ができるのではないのでしょうか。「生活していくため」「自立をするため」「成長していくため」「生活するためでもあるが、自己実現するためでもありたい」等々。時間があればみなさんとゆっくり話したい”お題“です。

続いては事務局のディーバ3人で結成するボーカルグループ「はもめ」の歌。1曲だけでしたが、今年はぜひアンコール曲も用意してほしいです。



e-mail、Line、Facebookなどネットを介しての交流は盛んに行われています。しかし、実際に顔を合わせての集いは心の栄養となり、明日の活力につながっていく気がします。例会、合宿、パーティに参加しましょう!!(ないとう)

左写真:“はもめ”の3人

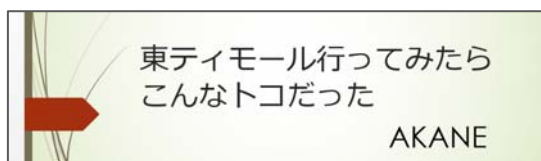
♪♪ パーティに参加して ♪♪

今回、WWの年末パーティに参加しようと思ったのは、1分間スピーチのテーマが「私にとって働くとは」だったからです。というのも、近年更年期(老化?)のせいか仕事が思うようにこなせず、また業務のIT化が求められ、働くことが苦しくなっていました。何かヒントをもらえればという気持ちでした。参加者の皆さんからは、仕事をしているおかげで新たな経験ができる、働くことは自然とつながることなど、色々な思いを伺うことができました。何よりも様々な分野で活躍されている方々に接し、元気をもらいました。

また話には聞いていたケータリングは見た目も美しく、とても美味しかったです。

最後に参加者のみなさんにいっぱい話を聞いていただいて、本当にありがとうございました。

(WW会員 黒田千里)



東ティモールは2002年に独立した21世紀初の独立国。ポルトガルによる400年の植民地支配ののち、24年間インドネシア軍(以後イ軍と表記)侵攻を受け、人口の3分の1が殺された。日本は、世界最大のインドネシア協力国で、軍事侵攻を認めた立場。巨大な油田が狙いだ。

私が東ティモールへ行こうと思ったのは、たまたまNGOによるツアーがあったからだが、やはり映画「カンタティモール」を見たというのが大きい。エピソード「東ティモールゲリラは、インドネシア兵を捕まえると、拷問もせず、三日三晩『自分たちがなぜ独立したいのか』を語り続け、武器だけ取り上げて釈放した。自分たちを理解してくれる人を少しでも増やしたいと思ったから」――そんな人たちの住みかたを実際に見たいと思った。

■街の様子

中心街は意外に瀟洒だが、一步離れると道路はでこぼこ、改修の作業はなかなか進まない。民家は、トタン屋根の簡素な造りだが、衛星放送のアンテナがあつたりする。いわゆる市場はもちろんある。でも、東南アジアでみるような、混沌というか湧き上がるようなエネルギーとは違う。落ち着いた感じ。海岸線は美しく、海水浴場もあ

る!

■人々の生活

聞いたところでは、映画のイメージとは違い、シャイで歌わないし、歌はへただという。職業としての歌手はほとんどいないそうだ。

大家族なので子育ては結構楽。親戚の子が学校へ行くため下宿して、幼児の面倒をみたりする。男の子の子はよく外で遊ぶが、女の子は家事を手伝うので遊んでいない(´・`・´)――

ODA 関連の仕事を得ると収入になるが、お金があると皆にたかられて困ると。でもお金がない人にはあげればそれでよい、という人間関係。国連等の補助も、もらえるものはもらえばよいという感覚だという。

小学校は二部制で、独立後国がきちんと規格を決めたせいで、却って増設出来なくなっている。憲法はあっても、実定法がなく法の効力がないという状況と同様、社会制度は整備途上だ。

■高い物価

ホテル 1泊4000円位 シャワーとトイレはあるが、タブはない。冷蔵庫はあるが、窓もない。朝ごはんは、ペラペラのトーストと卵料理。コーヒーのおかわりもない(**)。

ショッピングモールはイオンみたいのがある。物価は高く、日本より若干安いくらいか？

1人あたりGDPが5万から10万円位で、多分、年収もそんなところ。教育費もとても高い。だれが支払っているんだろう？と疑問に思う。

■NGOとの活動

私の参加したCDICは地域主体の途上国開発NGO。これまでの「北」から「南」への経済成長優先の一方的援助ではないものを目指す。植林活動、手織物女性自立、農業開発支援等している。

まず、植林事業を見学。現地NGO職員は有給で月1~2万。五時間半労働とのこと。

生活用マキのための伐採や、争乱中の枯草剤散布の影響で禿山となっており、保水のために必要な植林を支援している。

課題は、若木が動物に食われること。だから植林地は囲いがある。動物というのは何と！牛やヤギなどの家畜だ。放し飼いなので昼、山に行き、夜帰って来る。他に家畜と言えば、鶏は見かけるが飼ってない。メて食べる前に置いてあるだけ。という。卵は売らない。飼うのと売って儲けるのは別なのだ。

次に、「ハダディン」、という手織物生産グループを訪問した。争乱で夫を亡くした妻や、幼児がいて働きに出られない女性が工房で働いている。彼女らは伝統手織物「タイス」を、糸から草木染で染め上げ、手織りで丁寧に織っている。しかし、せっかく長期間かけて織り上げた製品を、さっさと親戚や近所へのお祝とかお使い物などにあげてしまうそう。彼女らにとってタイスは売り物ではなく、贈り物。伝統的な価値そのものなのだ。商品だと思っていない。伝統的な草木染の価値があるのに商品化がむづかしい、とNGOはこぼす。

■教会

植民地時代の影響で宗教はほぼカトリック。教会は公民館的な機能があり、特に争乱時代は、敵軍の情報の集まる重要な場だった。

【東ティモールの歴史を変え事件：サンタク

ルス墓地の虐殺】1991年、モタエル教会から出発した平和的なデモ隊。イ軍はこれを、同墓地に誘導し追い込んだ(出入り口はひとつ)。そして無差別発砲し、市民400人近くを殺害。しかし英国人カメラマンがこれを記録し報道。この事件により、それまで隠蔽されていたインドネシアによる暴力的支配が世界に知れわたり、独立へのきっかけともなった。

■真実告白委員会(CAVR)記念館見学

これは、内戦などにより、人権侵害が生じた歴史を抱える国々が、過去の過誤を発見・公表することで、人々の間に積み重なった軋轢を解決するもので、世界各地にある。代表的なのは、南アフリカのアパルトヘイトの例がある。お互い告白し許し合うという考え方。従来は、村長などに相談し、解決するしかなかったそう。

例：①イ軍軍人と結婚していたため、独立後迫害されていた女性。が、実は村のために、無理やり結婚させられて苦しんでいたと話し、和解。②市民を迫害していた東ティモール人。インドネシアに移住しも、そこで生きることもできない。過ちを認め和解。…インドネシア化強行政策の傷により、こういう軋轢と和解の例は多い。記念館には、女性に対する暴力の展示と組織的なレイプの告白記録があるが、そこではイ軍によるものだけではなく、東チの地方役人や小学校の教師によるレイプも明確に記録されていたのはそのためだ。

■独立への戦い

ポルトガル時代の牢獄遺跡で、元ゲリラという老男に会い、話を聞く。彼によれば、もちろんイ軍と戦い相手を殺害したとのこと。

現地在住のNGOの人などの話では、東チゲリラには武器もなく、とにかく隠れ、逃げ回るのがゲリラ戦の戦術だった。闘わない人たちだという。現在も軍隊はたった1500人である。またラモスホルタ(ノーベル平和賞受賞)はじめ、指揮は主として国外から行われ、西部に比べ情報の乏しかった東部で、共産的勢力+カトリック、により抵抗勢力は形成されていた。またイ軍による極端な迫害自体が抵抗結束の原因とな

った。アメリカは、スハルト時代の共産主義排斥目的から、冷戦後の石油資源確保へと転換した側面がある。

■経済と産業

元々自給自足的な農業中心だったが、独立時の攻撃で経済は壊滅状態に陥った。石油LPGが3分の2、農業がGDPの4分の1を占めており、米トウモロコシ、コーヒー豆などを小さな農園で生産。大規模農業がない。主食は輸入だ。コーヒーは焙煎されず、豆でアメリカ資本が買って行く。彼らは製造者ではなく生産者だ。コーヒー生産者支援の日本NGOによれば、選別の技術を教えてもなかなか覚えてくれない。品質をあげ、利潤を得るとよいが、彼らは「儲からなくても、食べていけるからそこそこでよいじゃない。」という。だからアメリカ資本に搾取される。予定を立てること、予定通りに事を運ぶことが苦手、交渉が下手…

■NGO/PARCIC 伊藤さん(現地の人と結婚し子育てしている女性)から別の見方を聞いて。

このNGOによる女性の生活支援プロジェクトは、家計の主な収入源(コーヒー)は男性が持って行くので、女性が直接収入を得られるように、ハーブティを商品化するという事業。

女性たちはとても意欲的で工夫もある。しかし販売管理ノウハウがない。パッケージやマーケティングなどができない。伊藤さんは、「彼女らは怠惰なのではない。市場主義的な感覚がないのだ。」という。私の質問「結局、市場参加する技術を伝えているということ？」伊藤さん「そう。確かに、矛盾を感じている。でも、実際にテレビにも携帯も。現金収入が必要。また、ほっておけば先進国による搾取されるばかりなので。」

…こういう視点で話してくれたのは、彼女がはじめてだった。(他の人もそう言いたかったのかもしれないが、私にそう聞く準備ができていなかったのかも。) …そして、はたと気づいた。

家畜を、現金収入のために利用しない。卵を採らない。タイスは商品ではなく、代々の伝統的価値。小さい農園で自分たちの

食べるものをつくるので物価が高くてあまりお金を使わないので何とかなる…交換価値(貨幣)ではなく、物そのものの価値に従って生活する。これはCOP10の時に何度か議論した「サブシステム」な世界なのではないか？自給自足的な地域から回す経済、市場主義にまだ侵蝕されつくしていないのだ。インドネシアによる封鎖政策も影響したのかもしれない。

■四題話——そこで、男性中心西欧中心の資本主義ということに思いを巡らせた【虹色Mで学んだ生活保護の歴史】18世紀イギリスでは貧困を怠惰という悪行と見て、收容し労働を強制すべきという考え方であった。後、貧困は資本主義の矛盾というとらえ方が出てくる。

【フリードマンのベーシックインカム論】貧困に対応するのに、雇用を作るのは費用が掛かるから、弱者対策は給付=BIの方が合理的という考え。

【米国のスポーツ論】スポーツは米国の教育の大きな柱だが、それは競い戦う能力を磨くのが目的。TROPS(勝敗をなくしたスポーツ)と真逆だ。

【環境論の授業での大学生の反応】資源の有限性による成長の限界については、理解するが、それでも経済成長は必要という感覚。

——よく知られている、「南のリゾートの木陰での、バカンスに来た欧米人と昼寝している現地人の会話(結局同じじゃん?)」、も思い出してみよう。

先般の総選挙でも、アベノミクスの有効論の議論はあっても経済成長に疑問を呈する声はない。交換価値が至上、競争によって勝利するのが善…私たちは、そういった男性的西欧中心の資本主義に洗脳されすぎているのではないか。

膨張を所与としない「定常経済」が提案されている(H デイリー等)。実は、我々は何度か歴史的に経済のプラトー状態を経験し、その時期にこそ文化的に広がりがあったという。

そういうことを考えたツアーだった。(追記:なお、欧州は、競争にひた走るアメリカとは違う道を行き始めていると思う)

WW例会報告

★☆☆名古屋市議会議員選挙立候補予定者に女性政策を聞く☆☆★

●2015年春の統一地方選立候補予定者は、女性政策をどう考えるのか

昨年(2014)の11月29日(土)午後2時～4時半、「名古屋市議会議員選挙立候補予定者に女性政策を聞く」と題した会を行いました。ワーキングウーマンの立場は不偏不党ですが、「均等法を実効性のあるものにする」「女性が生き生き働けるためには何でもする」という活動方針に沿って、今まで主として国会(国政)を中心にした活動をしてきました。しかし民主主義の基本としての地方政治に、女性政策に関心のある議員を選び、働きかけていくことの重要性は言うまでもありません。そのために今回は、今年(2015)の春の統一地方選挙の立候補予定者に集まっていただき、女性政策についてどのように考えているのかを聞く会を持ちました。出席者は あんまゆき氏(無所属新人・中区) 女性首長を実現する会あいち推薦 松原みさこ氏(新党一人ひとり新人・守山区) 平山良平氏(社民党愛知県連合副代表) の3人。当初出席予定だった岡田ゆきこ氏(共産党・北区)は、多忙のため欠席になりました。また平山氏は山としひろ氏(社民党県連代表)の代理出席です。

●ワーキングウーマンからの4つの質問

ワーキングウーマンからは、前もって「女性政策にしぼった4つの提案をどう考えるか」という質問へのお答えをお願いしてありました。最初に3人の方からは、ご自身の女性に関する政策とともに、そのお答えもお願いしました。

(ワーキングウーマンの提案)

- ① ジェンダーの平等(男女の格差をなくす)
- ② 女性に対する不当な差別をなくす
- ③ 男性の育児休業を推進する
- ④ 女性副市長の実現

●立候補予定者皆さんの発言

<あんまゆき氏>

「男女の格差は労働分野、政治分野に特に大きい。これを埋めていくためには、女性が伸びて行ける分野をどんどん伸ばす(ボトムアップ)と同時に、シングルマザー、DV被害者、外国人児童、被虐待児童などの、より困難な状況に置かれている女性・子どもへの支援や取り組みが必要。また生き方の多様性を認める活動も推進したい。

提言の①～④は全部当然」

<松原みさこ氏>

「日本の状況を見て、これは黙ってられないと思って勉強し始めた。原点に戻り

1人の人間として幸せに生きるにはどうしたらいいかという視点に立って、男女平等を考えたい。名古屋で何が出来るのか?地域を見て行こうと考えた。地域の繋りを強くする活動に男性が関わりたいと思っても、男性は時間がない。労働時間の制限が必要。女性が輝くためには男性の働き方を変えていく必要がある」提言に対しては、

- ① 一応は納得
- ② 管理職試験を受ける女性が少ない状況の改善を前向きに進める
- ③ 徐々にだが、進めなくてはならない必須のこと
- ④ 当然

<平山良平氏>

「『男社会』というが、男が輝いているわけではない。男もダメにするのが男社会。(社民党の女性関連政策を挙げる)男性も女性とともに進んでいくという意識を持つ。提言に対しては

- ① 党の方針からして賛成
- ② 名古屋市の勤務体制が今のままなら女性の出世はむずかしい(だから変える)
- ③ 男性自身が闘って勝ち取って行かなくてはならない。
- ④ 当然

●質疑

Q:地方議会で「雇用の問題」で何か出来る事はあるか。たとえば名古屋市も「公契約条例」を結び、女性に対してキチンとした対応をしている企業と契約するなどが必要ではないか。

A:〈あんま〉条例を作ることに賛成
〈松原〉賛成

〈平山〉利益優先で賃金を下げる企業を排除するためにも公契約条例は必要

Q:ワーキングウーマンの4つの提言のうち、1つでも「私ならこれが出来る」というものは何か。

A:〈あんま〉③の育児休業。昇進の時に「育休を取っていれば加点。出世したいなら育休を!と。

〈松原〉③の育休。地域住民を巻き込む地域の理解が必要という観点から市民の議会を作り、そこで柔軟に対応する。

〈平山〉④の副市長。訴えやすく実現が可能

このほかにも、「男女役割分担意識を根本から変えるにはどうするか」「議会改革で議員定数の削減をどう考えるか」「配偶者控除をどう考えるか」等の問題について、活発な議論が交わされました。

最後にワーキングウーマンからも「自分自身が政治にかかわって行き、人任せにしない、都いう気持ちを持ってやっていきたい」という参加者へのメッセージが語られ、会は幕を閉じました。立候補予定者の考え方や人柄がよく伝わる会でした。

●アンケート

書いて頂いたアンケートにも、「市議選立候補予定者の生の声がお聞き出来て大変参考になりました」(女性)

「やはり人口比率にあった議員の数が望ましい。その為には女性の意識変革が大切」(男性)

「面白かった。また機会があれば参加しい」(女性)

「男女平等は大きな問題。夫と闘うことはかなりしんどい。難しい」(女性)などの感想以外にも「3人だけでは面白くない。自民はじめ他党も参加するよう努力してください」(男性)というご批判も。その通りですね。参考にさせていただきます。

文責・高野)

♪♪♪～フェミ活用についてのご案内です

■フェミマネー活用例

年会費2000円を支払うと2000フェミが送付されますが、この活用についてはまだあまり知られていないので、活用例をご紹介します。

フェミ事務局がお知らせする企画やパーティだけでなく、会員間の個人的なやりとりも是非盛んに行ってください。

そのためには、キャリアバンキングに登録し、やってほしいことやれることの一覧に記入することになります。それを見て、依頼するというわけです。

もし、登録はちょっと、、、という方は、とりあえず事務局にこんなことを依頼したいが、やってくれる人はいるか？と問い合わせてもOKです。

個人的に知っている人がいれば、事務局を通さなくてももちろん自由に活用してください。

《最近の活用例》

その1 個人が行うイベントのチラシデザインの作成 1000フェミ

その2 入院中のお弁当作りと配達(患者宅で調理) 100フェミ(回数が多いので激安で)

その3 お正月の花活け 実費の他に 100フェミ (写真)

※ フェミマネーには有効期限が記載してあります。

14年度の発行は16年の3月まで有効です。15年度発行からは期限をつけないことにします。

※WW会員でなくてもフェミ会員になることもできます。会費は無料で1000フェミ進呈します。



■フェミ企画

特別企画報告 「フランスの子育て支援政策 保育・教育制度を中心に」

11月22日(土)14:00～16:00

講師:藤田浩美 WW 会員 参加費 100フェミ(お茶とお菓子付き)

藤田浩美さんは、仕事の傍ら、10年ほど前に愛知県立大学国際文化科に社会人入学し、「フランスの子育て支援制度」について学んでこられました。また日仏女性資料センター会員で、フランス女性の生活や考え方について学ぶ研究会に参加されています。フランスは女性の就業率も高いのに、出生率も高い国。就業率の高さと、出生率の高さをどうやって

両立させているのか、それが今日のお話のポイントでした。

北欧の子育て支援制度は有名ですが、藤田さんは、フランスの子育て支援制度の方に興味があるということです。北欧の制度は、父親・母親の育児休業支援が行き届いていることが特徴ですが、フランスは産休明けから母親がフルタイムで働けるような託児支援の充実も目指しているそうです。もちろん3歳までとれる育児休業もありますが、仕事を中断したくない人、育児を満喫したい人双方に、なんらかの支援制度を整備し選択の自由を保障しているのが特徴です。長期の育児休業がその後の職業生活に不利にならないよう、子どもを預けて働けるような制度作り重点を置きつつあるようです。もともとフランスは3歳から大学まで公立なら教育費は無償、子育ては社会の責任という考えの国です。3歳未満児であっても、その子育ては社会の責任という考えで一貫しているようです。

産休明けから母親が仕事にもどるために、フルタイム勤務だけでなく、パートタイムへの転換、シフト勤務、在宅労働などあるようです。パートタイムとフルタイムは時間按分で社会保障制度など整備されており、不当に差別されることはありません。また様々な保育園、託児施設、保育ママによる託児があり、自分にあった託児支援を選べます。実際にはまだまだ保育園は足りませんし、いろいろな制度をつなぎ合わせ何とかやっているというのが現実のようです。けれども声を上げて改革に結び付けていく姿勢と、試行錯誤を繰り返しつつ様々な支援制度を整備した結果、フランスは、家庭生活と仕事の両立が他の多くの国よりも可能となったのだそうです。

なるほどと納得、日本も大いに参考にしたいですね。藤田さん、詳しい資料を準備いただきありがとうございました。(三輪)

・そのほかにも継続企画実施中です。

継続企画 「声に出して読みたい憲法・均等法」11月開催しました。

11月19日(水)10:00~12:00 参加費 100フェミ 第8章地方自治から
■次回は1月23日(金)13:00~15:00

継続企画 「着物着つけ」12月開催しました。

12月13日(土)14:00~ 参加費 100フェミ 講師 川田外美江会員
■次回は1月24日(土)10:00~12:00

会場は奥田さん宅 参加の方は前日までに052-581-3038へ連絡願います。

■気になる「全日本おばちゃん党」

2014 年末のクソ(失礼)忙しい時期に、ヒトのメークも考えず大金(700 億円だと!)使って挙行された衆院選。「安倍総理の安倍総理による安倍総理のための選挙」だったことミエミエなのに、付き合わされた国民はいい面の皮。結果は…ご存じの通りで「なんのためにやったんだか」。自民党に対抗できる野党を見つけたかったんだけど、「そこにはただ風が吹いているだけ」だったしね。しかしまあ野党の「多弱」ぶりにはもうウンザリ。そんな今、気になるのが「全日本おばちゃん党」だ。この党の出している「はっさく」「腹太の方針」を読んでぷっと吹き出し、ちょっとファンになった。「はっさく(八朔)」「維新ナンチャラという党が、オコがましくも坂本龍馬のパクリで作った「船中八策」のパロディです)では「おばちゃんは、自分だけが幸せ、自分だけが安全、自分だけがよい生活は、いやです」「おばちゃんは、全世界の幸せな未来を考えています。ゆくゆくは全世界おばちゃん党を目指します」。おや、格調もこころざしも高いじゃないの。「腹太の方針」(これもナンチャラが作った「骨太の方針」のパロディ)の経済政策は「借金に次世代につけ回さず、現世で分け分け」「おばちゃんと若い子に職と食の保障を!」。教育「子どもに目えと手えと愛を」、外交「ステルスよりも豚まん買うて」「『三方よし』の心根で」と、どれも極めて単純明快、そして的確。全日本おばちゃん党カッコいい。…と、気持ち盛り上がったので、今年第1 作目のご紹介映画は「滝を見に行く」(2014/監督・脚本/沖田修一)といたしました。地味だけど滋味あふれ、(これじゃオ

ヤジギャグだが…)おばちゃんの実力がよくわかる映画です。

■おばちゃんの可愛らしさバクハツ

「まぼろしの滝」を見に行く一泊ツアーに参加した7 人のおばちゃんたち。現地に到着し、頼りない男性ガイドと一緒にまぼろしの滝を目指して山登り開始。写真を撮ったりおしゃべりしたり木の実を積んだりと楽しつつ山道を進む。しかし先に行ったガイドが戻らない。どうやら道に迷ったらしい。おばちゃんたちは山の中に取り残されたのだった。携帯は圏外で食料もない。さあ、おばちゃんたちはこのピンチをどう乗り越えていくのだろうか…。

おばちゃんたちは最初のうちこそ不安からギクシャクするが、すぐに「ガイド搜索組」「居残り組」の二手に分かれて何とかしようとするなど、パニックらず冷静な対応をする。ホイッスルの代わりにオペラの経験者が歌声を響かせるとか、再び道を見失わないようにトンガリコーンで矢印を残すとか、足を痛めた一人のために裁縫道具で杖を作るとか、各自が自分の特技や能力を活かして協力し合う知恵もある。疲れて口論も起きるが、山歩きに馴れたメンバーが食べられるキノコやクリ、クルミを見つけて晩ご飯の足しにするなど、生活上の知識をサバイバルに活かしてみせ、すぐ和気藹々になる。おばちゃんたちの可愛らしさがバクハツするのは山中での野宿シーンだ。満天の星空の下、レジャーシートと枯葉にくるまりみんなで合唱したのは、な、なんと、かのお色気歌手、奥村チヨの名曲「恋の奴隷」だった!…なぜにこの歌?ヒソカナ愛唱歌なの?おばちゃんたちは心のどこかで「こんな熱烈な恋をしてみたい」と思いつつ、フツ

一の日常を淡々と送っていたんでしょ
うか？なんだか可笑しさと同時に、切なさ
までがこみあげてくる。

登場する7人のおばちゃんたちは「40歳
以上の女性・経験不問」というオーディシ
ョンに応募して選ばれた女性達だとい
う。だからこの7人はプロ・アマの混成
軍。彼女たちをキャスティングした沖田
監督の目は確かです。シロートの自然
な振る舞いは、俳優の名演技に匹敵し
ちゃうんだ、と感心。

■おばちゃんグループと他の違いを考察

ストーリー自体は単純でいかにもロー
バジェット(低予算)映画なんだけど、こ
の映画の面白さは、ストーリーに刺激さ
れているところにある。私は「この7人
がおばちゃん以外だったらどうなるだ
ろう」と愚考(妄想)した。

・若い女性7人のグループだったら？—
体力はあるが、落ち着きと知恵がない
のでギャーギャー叫び、ムヤミやたら
に歩き回って消耗し、誰かが沢に落ち
たりして大ごとになる。

・若い男性のグループなら？—みんな
プライドが高いし他人に関心がないの
でお互い人の意見をまったく聞か
ない。自分の持っている機器(スマホ
とか小型パソコンとか)に頼ることば
かり考え、7人がバラけて個々に遭
難する。

・おじさんだったら？—山歩きの経験
が多い男性がすぐにリーダーになり、
残りの6人を「組織化」して「役割分
担」する。—見うまく行くが、リー
ダーがエラソーにふるまい上下関係
が出来るので、下位のメンバーが不
満を持って口論になり、力関係の逆
転が起きる。喧嘩の挙句バラバラに
なって衰弱する。

・男女混合グループだったら？—力の
強い男性が主導権を握り、女性の前
でいいところを見せようと、他の男
性に「指令(または命令)」を下すよ
うになる。その力の強い男性に「色
目」を使う女性も出てきて、雰囲気

が悪くなり、グループは分裂し、それ
ぞれにさまよう。

…とまあ、ワタシ的には、どのグル
ープもロクでもない結末ばかりが浮
かんで仕方ない。偏見があるんじや
ないかって？そうかもね。否定はし
ませんが。

■おばちゃんに託したい！

しかしこの映画通り、おばちゃん
だけのグループなら、どんな危機に
出会っても絶対に助かりますね。

まず、おばちゃんは協調性が豊か。
相手のいう事をちゃんと聞き、得意
技のある人の能力を尊重し、全体の
利益にするという心の柔軟性がある。

おばちゃんには共感力がある。相手
を認め、それぞれの辛い過去には同
情し背中をさすって慰め、痛みを共
有して薄めるという技を持っている。

そしておばちゃんには現実的、実
際的な生活の腕がある。

映画のラストシーン。助かりそう
だとわかったおばちゃんの一は、ケ
ロっとこう言う。「せっかくだし、
みんなで滝を見にいきませんか？」
それにみんなは「いいわね！」と賛
成し、本来の目的の「まぼろしの滝
見学」をちゃんと果たしてしまうの
だ。確かにツアーの目的はそれだ
った。でも遭難しかかってやっと助
かったばかりなのに、それ言う？
…何てたくましいおばちゃんたち
なんだ！惚れ惚れするじゃないの。

やはり日本の未来は、「腹太の方針」
が実行できるおばちゃんたちに託
したいものだ。










* 1/10 からセンチュリーシネマ
で上映中



INFORMATION・情報・じょうほう



 【女性首長を実現する会 あいち】二周年記念セミナー	
セミナー	2月11日(水・祝)17:30~20:30
日時	小宮山洋子(元厚生労働大臣)、岩本美砂子(三重大教授、政治学、女性学)
場所	ウインクあいち 会議室 参加費 1000 円(正会員無料)
問合せ	Blog: http://ameblo.jp/quota-aichi/ 問合せ:womanhead@hotmail.co.jp
トーク	☆≧ LGBTトークイベント☆≧ 詳細未定 上記にお問合せください ↑
日時	3月14日(土) 19:00-ノ瀬文香、杉森茜さん(同性婚を公表)、中野区議石坂さん
場所等	Queer+s(地図 http://queer-s.com/) 問合せ Blog http://nijiroyuki.com/
 【東海ジェンダー研究所】	
講座	ジェンダーとはなにか・フェミニズムで読み説く経済学のジェンダー構造 安川悦子(名市大名誉教授)
	1月31日(日)13:30~15:30
	東海ジェンダー研究所 6F セミナー室(金山)定員30名 無料 要申込み
問合せ	東海ジェンダー研究所 052-324-6591 http://libra.or.jp/
 【参画プラネット】 上映会「女性と性」シリーズ1	
シネマ&トーク	「今、生殖医療は」-『卵子提供-美談の裏側』を手がかりに
	3月7日(土)午後1時30分~4時30分
	会場 名古屋大学教育学部 第三講義室 参加費 無料
問合せ	NPO 法人参画プラネット TEL: 052-203-5171 EM:info@sankakudo.net
 【名古屋YWCA】	
講座	第41回 天皇制問題を考える2.11集会 「女性と天皇制 作られた伝統としての近代天皇制と現代」 講師:片野真佐子(大阪商業大学教授)
講師	
日時	2月11日(水・祝)18:00~20:00 参加費:1000 円(学生 500 円)
問合せ	Tel: 052-961-7707 office@nagoya-ywca.or.jp
 【アムネスティインターナショナル日本 わやグループ】	
パーティー	☆☆【名古屋】ラテンパーティー2015 ~サルサ×人権×難民~☆☆
日時	1月25日(日) 開場 14:00 / 開演 14:30 / 終演 16:30
	一般 予約 2,000 円 / 当日 2,500 円 会場:名古屋 YWCA 2階 ビッグスペース
	メール jinkensalsa@gmail.com
	アムネスティインターナショナル日本 わやグループ/名古屋 NGO センター/ ニカラグアの会
問合せ	http://www.amnesty.or.jp/get-involved/event/2015/0125_5023.html
 【ウィルあいち】	
講座	女性の活躍応援公開講座「チャレンジする楽しみ~『働く』という選択肢を考える~」
日時	2月11日(水)13:30~16:10(開場 13:00)
	第1部『一步を踏み出すためのマナーマネジメント』
	講師:(株)ク雷斯・プランナーズ・(株)UTA 代表取締役 正門律子氏
	第2部『ドリームマップでなりたい自分をカタチに!』
	講師:一般社団法人ドリームマップ普及協会 代表理事 秋田稲美氏
	会場 ウィルあいち 3階大会議室
他	参加費 無料 定員 200名(先着順、男女問わず参加可能) 申込締切 1月30日(金)
講演	元祖イクボスに学ぶ! イクメンは、なぜ仕事もできるのか?
日時	2月14日(土)10:00~13:00
	川島高之(三井物産ロジスティクス・パートナーズ(株)社長、NPO ファザーリング・ジャパン理事)
他	受講料 1,000 円定員 30名(イクメン・イクボスに関心ある男性)セミナールーム6 託児要予約

講演日時	いざという時のために！～「男女共同参画と誰もが安心安全な避難所を作るために」 池田恵子(静岡大教授 減災と男女共同参画研修推進センター) 岡田晴道(愛知県) 2月15日(日)10:00～16:30
他	受講料 1000 円 定員30名 託児有 要予約
交流	働く女性のキャリアアップ&交流デュッフェ
日時	企業の第一線で活躍している女性ゲストからアドバイス、ミニセミナーと、軽食 第5回 2月12日(木) 大橋弓子(ブラザー工業 IE 技術部 管理職)
講演	参加費 2,000 円(飲食代含む。) 定員 各回 80 名 託児 あり 要予約 あいち女性連携フォーラム事業「ひとりぼっちの私が市長になった！」
日時	講師 草間吉夫(東北福祉大学特任教授、前茨城県高萩市長 児童養護施設で育つ) 2月28日(土)14:30～16:30
他	受講料 500 円 定員・対象 90 名 託児あり 要予約
講座	あすが見えない パート2 ～生活不安の中で～
日時	【第1回】2月22日(日) 13:30～15:30 追いつめられる男たち 中村正(立命館大学教授 社会病理学、臨床社会学)
	【第2回】2月28日(土) 11:00～13:00 貧困の連鎖を断つ 草間吉夫(東北福祉大学特任教授 前茨城県高萩市長)
	【第3回】3月7日(土) 10:00～12:00 児童虐待防止支援の現場から 萬屋 育子(CAPNA 副理事長、愛知教育大特任教授)
他	会場 ウィルあいち 2階セミナールーム 6(*2/28のみ1階セミナールーム 1)
日時	受講料(全3回)1,500 円 *1回は各 600 円 定員・対象 30 名 託児あり 要予約
問合せ	場所:ウィルあいち 会議室等 (公財)あいち男女共同参画財団 企画協働課 TEL 052-962-2512、FAX 052-962-2477 メール【willkouza@aichi-dks.or.jp】
	【イーブルなごや】(旧女性会館+つながれっと Nagoya)
公開講座	「差別のない明るい未来を」第1回目 遠い国の問題!? 子どもの権利と児童労働 成田 由香子(認定 NPO 法人 ACE(エース) 子ども支援事業担当)
日時	1月26日(月) 10:00～12:00 定員 一般 100 人 事前申込不要 受講無料
場所	イーブルなごや 3階大研修室 託児 受講者のみ 問合せ
講座	「いま」を読み解く 伝え続ける 被災者にとって必要な支援 ～東日本大震災 被災地
講師	での活動から～ 奥村 潤子(日本赤十字豊田看護大学 教授)
日時	2月7日(土)10:00～12:00 事前申込不要 定員一般 350 人 無料 イーブルなごや 3階ホール 託児 定員 20 人 実費 40 円
問合せ	TEL:052-331-5288 FAX:052-322-9458 HP: https://e-able-nagoya.jp/

婚外子差別に NO ! 電話相談 041-527-7870

2015年(全て木曜日 14:00～16:00) 1月22日、2月26日、3月26日、4月23日、4月23日、
5月28日、6月25日、7月30日、8月27日、9月24日、10月22日、11月26日、12月10日
主催:なくそう戸籍と婚外子差別・交流会 取次先 FAX、TEL 03-3302-9219(夜間)

☆☆毎週金曜日【中電・関電前アクション】☆☆

3年を過ぎた今も、毎週行動がおこなわれています！ **行ってない人、いちどは行こう！**

★再稼働反対アクション関電東海支社前 ACT★ =18時から20時 地下鉄高岳 1番出口

☆浜岡原発を廃炉に！中電本社前アクション☆ =18時から19時 地下鉄高岳 or 栄

参加できる時、参加できる時間帯だけでも OK！ 仕事帰りや、栄に向いた折など、参加しよう。

9月の情報欄「木曜虹色ミーティング」第5回 10/23「外国人女性を支援する活動」杉戸ひろ子さんの所属に誤りがありました。正しくは「そうみ移住女性自立の会」。ご迷惑をおかけしました m(_ _)m